

一般質問

6月14日、17日、18日の3日間にわたって一般質問が行われました。一般質問とは市政全般について市当局の考えなどを聞くもので、23人の議員が質問を行いました。主な内容は次の通りです。
(正式名称は欄外参照)



都市問題としてのカラス対策の取り組みを

市民ク

問 カラスによる街中での生活被害がこれから深刻になってくるのではないかと危惧しています。まずは、被害の実態を調査・把握し、被害を生じさせないための抜本的な対策を練るといった具体的な取り組みが必要と考えるが所見を問う。

答 現在、国が作成した自治体向け対策マニュアルなどを活用して、関係局・区において市民相談への対応などを行っている。今後、被害の実態も把握しつつ、国や他都市における事例などを参考にしながら、生活被害等を未然に防ぐ取り組みも含め検討していく。

空港南側周辺の土地の有効活用を

無所属

問 福岡空港南側周辺は、国が税金で買って所有する移転補償跡地がたくさんあるが、有効活用されていない。市として積極的に一緒になって知恵を出し、有効活用すべきと考えるが所見を問う。

答 空港南側の移転補償跡地の活用については、市民のスポーツニーズを踏まえるとともに、土地利用上の制約などの課題もあり、地域住民の要望や意見を十分に聞きながら、関係局と連携し、検討していく必要があると考えている。

子どもに対する医療費助成の拡充を

公明

問 中学生は部活動などでけがをすることも多く、受験や進学など教育費が増大する時期でもある。子育て世帯の経済的負担を軽減させる観点から、まずは本市として中学校3年生までの医療費助成の拡充に取り組んでいただきたいが所見を問う。

答 子ども医療費の助成対象拡大については、まずは財源確保の観点から県費補助率の格差是正に向け、県との合意書に基づき、今後も粘り強く県との協議に取り組みとともに、他の子育て支援策との関連も踏まえ、今後検討すべき課題と考えている。

災害時における障がい者支援の取り組みを

緑・ネ

問 障がい児者にとっても、非常時の被害や不安等をできるだけ大きくしないように、自助または共助力を少しでも上げておくことが必要である。大規模災害発生時には、どのような方法で障がい者の避難支援を行うのか。

答 避難情報の取得が困難な方へ、電話やファクスを利用して、避難情報を知らせる取り組みを開始している。また、避難行動要支援者の個別支援計画の策定が進むように自治協議会等関係者に向けたハンドブックを作成し、災害

時には個別支援計画に基づく要支援者への対応をお願いしている。

答 平成30年度から認知症フレンドリーシティ・プロジェクトを開始し、ユマニチュードの普及などさまざまな取り組みを進めている。今後とも、認知症の人が尊厳と希望を持って認知症とともに生きることができるとともに、社会的実現に向けて、しっかりと取り組んでいく。

問 食料品等の日常の買い物や困難な買い物弱者への支援サービスは今後ますます重要になる。中でも、高齢化が深刻な市営住宅への支援は喫緊の課題であり、買い物送迎事業や移動販売など、買い物弱者に対する取り組みを問う。

答 西区の福重住宅において移動販売を試行的に実施している。実施に当たっては、入居者の総意に基づくことなどが重要であり、事業者の選定等も管理組合等が主体となつて十分な話し合いのもとで行っていただきたいと考えている。管理組合等の負担軽減については、支援策の検討を行っていく。



西高宮校区で運行されている買い物支援バス

認知症の人が暮らしやすいまちの実現を

公明

問 健康寿命や活動寿命を延ばせに暮らし、活躍できる「希望ある『高齢社会』(幸せに齢を重ねる)を構築することが重要である。認知症の人が暮らしやすいまちを実現するために今後の対策への所見を問う。

象を中学校3年生まで拡大することはできないのか。

答 助成対象拡大は、まずは財源確保の観点から県費補助率の格差是正に向け、県との合意書に基づき、今後も粘り強く協議に取り組みとともに、他の子育て支援策との関連も踏まえ、今後検討すべき課題と考えている。

問 防犯灯の設置が進み、市内の道路は以前より随分明るくなってきたと感じるが、働く女性が増加し、「夜道が暗くて怖い」という意見も聞く。女性の意見を十分に取り入れて防犯灯の整備を促進することが必要と考えるが、どのように取り組んでいくのか。

答 本市では、全ての人が安全で快適に利用できる道路の環境整備を進めてきており、防犯灯の整備においても、さまざまな視点を生かすことが重要である。今後は、女性の視点をこれまで以上に取り入れる工夫をしながら、防犯灯の整備を促進していく。

答 JR筑肥線内で発生した輸送障害に伴う代行輸送等の

対応は、JR九州において判断、実施されるべきと考えているが、こうした対応が効果的かつ円滑に行われるように、JR九州とは必要な協議・連携を行っていく。

問 選挙の投票率を向上させるためには身近に投票所があることが重要であり、月隈投票区のように投票区が広いところでは投票所までが遠過ぎて、投票率が低くなる場合もあるのではないかと。投票区を分割し、できるだけ近い場所に投票所を設置する努力が必要と考えるが所見を問う。

答 投票区の分割は、投票率の一つであると考えられる。一方で、投票所に適した施設や運営するための人員体制の確保等も必要となるため、これらの課題を踏まえ、地域の意見を十分に聞きながら取り組む。

JR筑肥線の代行輸送の確保を

共産

問 JR筑肥線および地下鉄線内で事故やトラブルが発生し、運転見合わせとなった際のJR筑肥線の代行輸送について、市が主体となつて、JR九州に対して代行バスの配置など要請すべきではないか。また、西鉄などにも協力を要請すべきではないか所見を問う。

